

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月10日～9月16日)

2019年9月23日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、パトルシェフ露国家安全保障会議書記と会談(9/10)

●国際 NGO「ジャーナリスト保護委員会」が、最も厳しい検閲が行われている国のリストを公表。ベラルーシは同リストで9位。(9/10)

●ルカシェンコ大統領、国内選挙は国際標準に沿って実施されると強調(9/12)

大統領動静

●パトルシェフ露国家安全保障会議書記との会談(9/10)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・両国の連合国家条約の履行に関して先日両国の首相同士が会談したばかりであり、自分(ルカシェンコ大統領)と貴書記との間で話すべきこともある。

・両国は、現時点で進める段階まで進もうと努力している。ペテルブルクでの首脳会談の際にプーチン大統領との間で答えを出し、両国政府に対して進むべき方向に関する課題を設定した。

パトルシェフ書記の要旨は以下の通り。

・(ルーマニアへのミサイル防衛システム配備に続きポーランドにも近く同システムが配備される可能性について触れ、)これらの場所には攻撃用ミサイルも配備される可能性がある。我々は米国に対して抗議しており、自らが最初に事を起こすことはないものの、挑戦や脅威に対しては手を打っていく。

・先日(当館注:9/3, 4)ミンスクで開催された「イノベーションと新技術を活用したテロとの戦い国際会議」においてルカシェンコ大統領が提案した欧州への短・中距離ミサイル配備禁止条約の署名提案(ママ)につき、ロシアは肯定的。

(9/10 大統領府公式サイト、国营ベルタ通信)

●イサチェンコ・ミンスク州執行委員会委員長(当館注:州知事相当)に対して大企業が国家からの支援に頼り過ぎていることを叱責(9/4)

大統領は、ミンスク州の企業「アフトギドロウシリーテリ」(当館注:自動車のパワーステアリング関連製品その他の製造業者)が国家からの予算支援や債務

返済義務の延長などを繰り返しているとして、叱責。

改革の必要性を強調。

(9/10 ベラパン通信)

●シェイク・ムハンマド・ビン・ザーイド・アル・ナヒヤーン・アブダビ皇太子(アラブ首長国連邦軍副総司令官)と会談

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・(初の公式訪問となる)貴皇太子の訪問は、両国の貿易経済・投資関係の促進に大いに寄与すると考えている。

・貴皇太子はベラルーシにご自身の邸宅も有していることから、いつでもこの国で休暇を過ごしていただきたい。

(9/13 大統領府公式サイト)

●国内選挙は国際標準に沿って実施されると強調(9/12)

ミンスク駐在の各国・機関の大使が出席した信任状奉呈式の席上、ルカシェンコ大統領は議会上下院選挙について、各国大使に対して「貴使らは、電子選挙活動が国内法と国際標準に厳格に合致した形で行われることを確信するだろう。」と発言。信任状奉呈式には、英、独、カザフスタン、キルギス、ロシア、スイス、ブルガリア、EU代表部ほか、計13名の大使が出席。

(9/12 ベラパン通信)

●セニコ国家税関委員会委員長と面談(9/16)

大統領は、「ベラルーシとロシアは税操作の補償に関する問題に立ち戻ることになる。」と述べ、税操作により失われる石油製品輸出関税収入の縮小に対して

同委員会がいかに対処するのかに関心を示した。また、本年の関税収入は昨年を上回るとの同委員会の見通しに触れ、「我々は関税収入の縮小に耐え、税操作を凌がなければならない。国营ベルネフチェヒム社の側でも打開策を探るが、国家税関委員会も自らに課された課題を解決しなければならない。」と発言。

(9/16 ベラパン通信)

内政

●国際 NGO「ジャーナリスト保護委員会」が、最も厳しい検閲が行われている国のリストを公表。ベラルーシは9位。(9/10)

同リストにはベラルーシの他、エリトリア、北朝鮮、トルクメニスタン、サウジアラビア、中国、ベトナム、イラン、赤道ギニア、キューバが掲載。

公表された文書では、ベラルーシでは大手メディアを当局がほぼ統制下においており、影響力のあるマスメディアに圧力をかけていると指摘。また、独立系ジャーナリストやブロガーが監視や拘束を受けるケースがあり、政府が独立系情報通信社を制限していることからベラルーシ人の多くはソーシャル・ネットワークに頼るようになっていくと指摘。

(9/10 ベラパン通信)

外交

●マケイ外務大臣、ニザル・ヘイル・アッラー・イラク第一外務次官と会談(9/11, ミンスク)

マケイ外相はベラルーシがイランの経済・インフラ復興国家プログラムに参加する用意を表明。同目的でイランに機器・技術・設備を納入すると発言。

(9/11 ベラパン通信)

●アンドレイチェンコ下院議長がヴォスクイル・トルコ大国民議会外務委員長と会談(9/11, ミンスク)

アンドレイチェンコ議長は、両国首脳の間で温かい友好関係のお蔭で両国関係は発展していると述べ、両国間の貿易高は2018年に約10億ドルに達したことを紹介。両国首脳により、それを15億ドル規模まで引き上げ

るという課題があるため、両国議会議員は政治関係のみならず貿易投資にも意を用いなければならないと指摘。また両国は国際場裏でお互いを支え合う関係にあると強調。

(9/11 国営ベルタ通信)

●マケイ外務大臣、ドイコフ・ブルガリア外務次官と会談(9/11, ミンスク)

両者は両国間の関係発展には議会間交流が重要な要素の一つであるとの認識で一致。マケイ外相は、両国間の貿易振興とベラルーシの対ブルガリア輸出の拡大に特別な注意を払った。その他、観光分野等の有望な協力について議論された。

(9/11 ベラパン通信)

●ケント米国務次官補代理が今年3度目のベラルーシ訪問(9/16)

同国務次官補は、今年3月及び6月にもベラルーシを訪問しており、今回は17日からベラルーシを訪問予定のヘイル国務次官の代表団の一員として先乗り。ミール城を視察した他、ユダヤ人のホロコースト被害記念碑等を訪問した。

(9/16 ベラパン通信)

経済

●格付け会社 S&P グローバル・レイティングズ:ベラルーシの銀行セクターの不良資産比率は約12%。

同社によると、ベラルーシの国内会計基準では国内銀行の不良資産は約6%と算出されるものの、国際会計基準を適用すると倍近い不良資産がある。同社は、2019年から2020年までの間に不良資産の顕著な増加はないと予測。

治安・軍事

●第16回ベラルーシ・中国軍備・軍用機器分野協力調整委員会会合が開催(9/11-13, ミンスク)

中国中央軍事委員会のリュウ・シェン軍備・軍用機器発展総局長は、軍需産業複合体は双方がそれぞれ優位性を有しており、相互補完関係にあると指摘。

これに対してゴロフチェンコ・ベラルーシ国家軍需産業委員会委員長は、両国は軍事分野において、双方が関心を有する軍用品の納入から軍事技術製品の開発と製造までをカバーする最適な相互協カスキームにまで到達したと指摘。

(9/13 ペラパン通信)

(了)